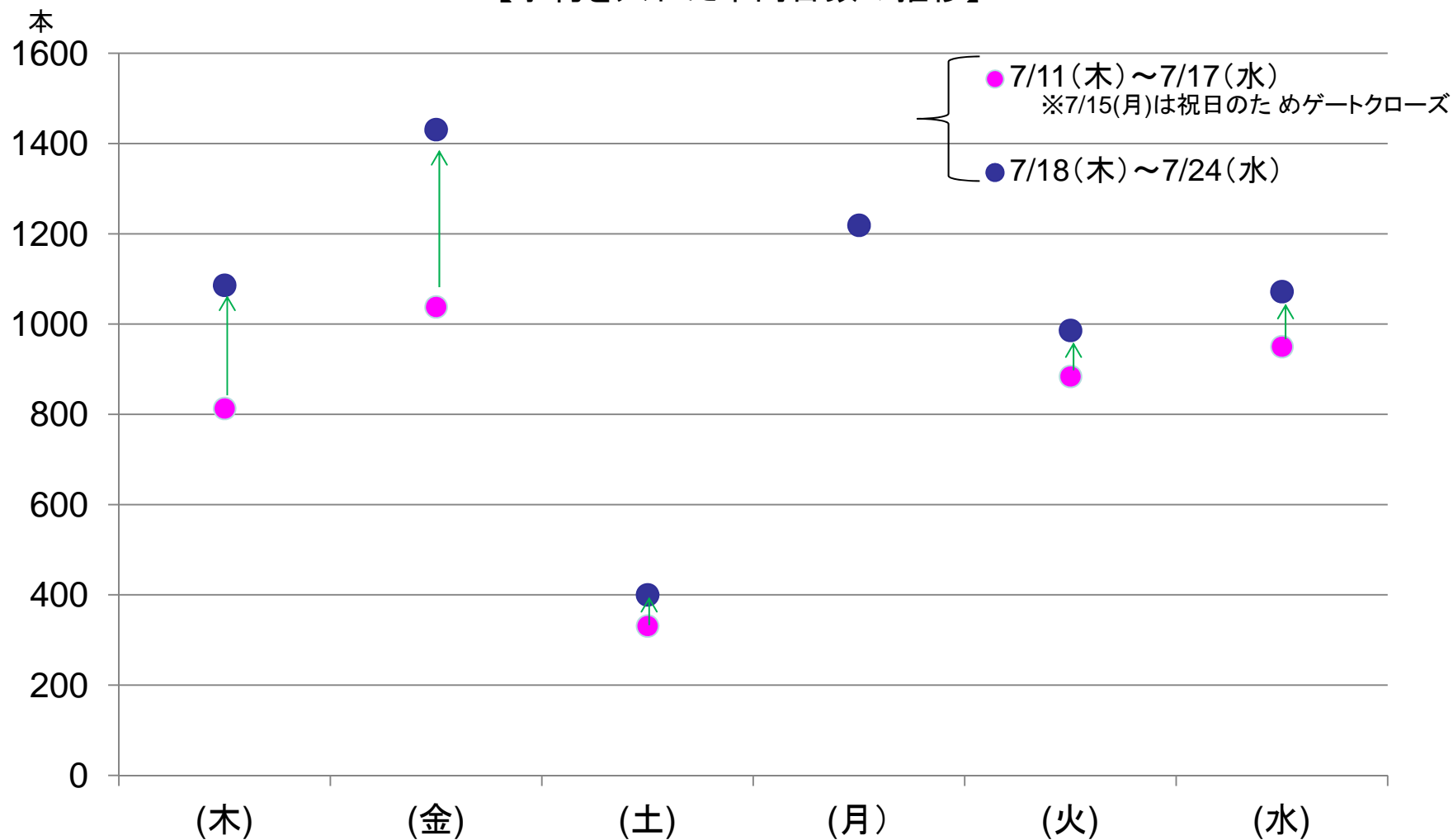


○予約を入れた車両の台数は、実験の経過とともに増加し、最終的には203社、10,210台（1日あたり平均928台）であった。

【予約を入れた車両台数の推移】

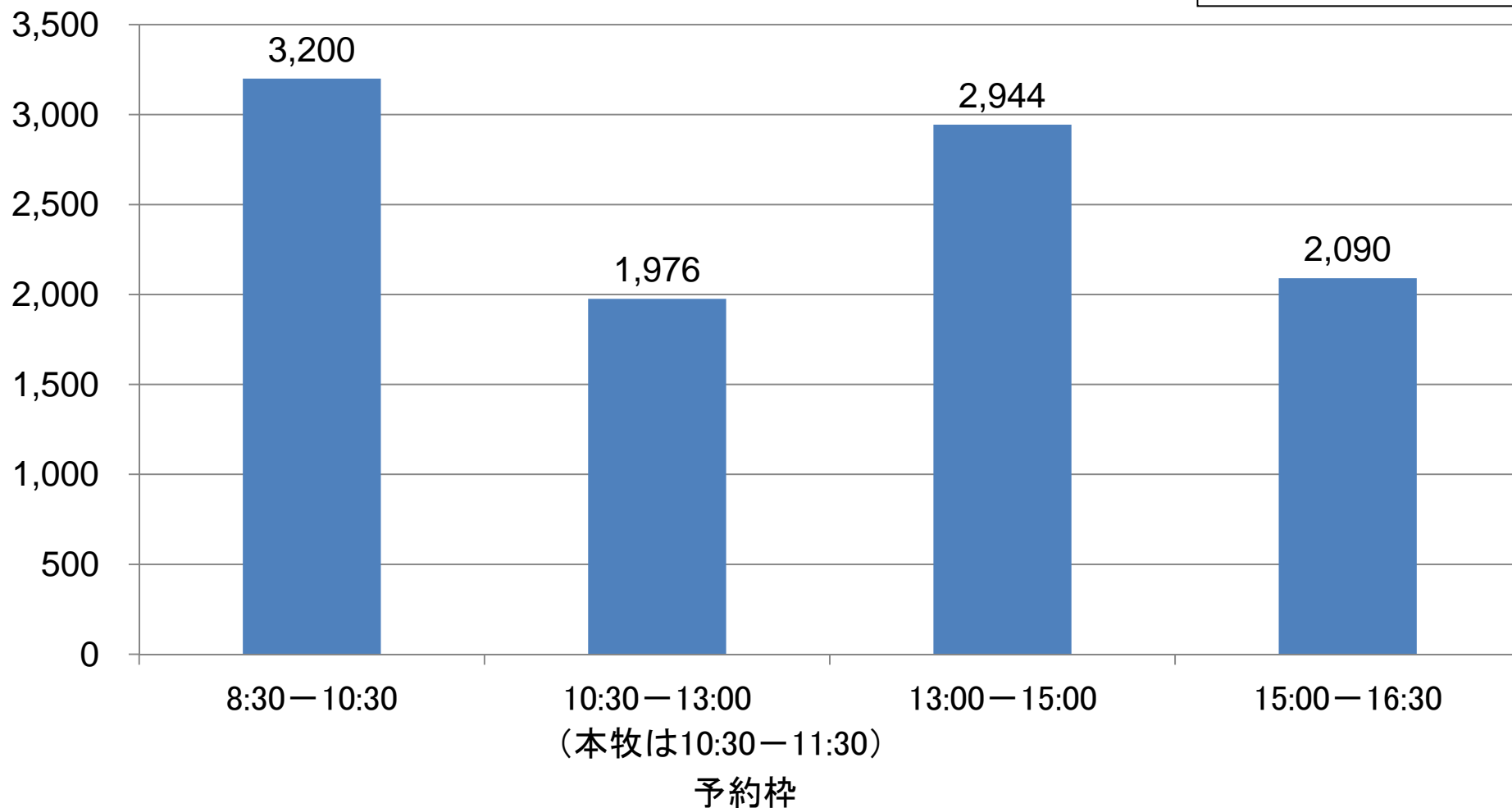


予約枠別の予約件数

○予約枠別の予約件数は、午前一番目の予約枠(8:30～10:30)と午後一番目の予約枠(13:00～15:00)が多かった。

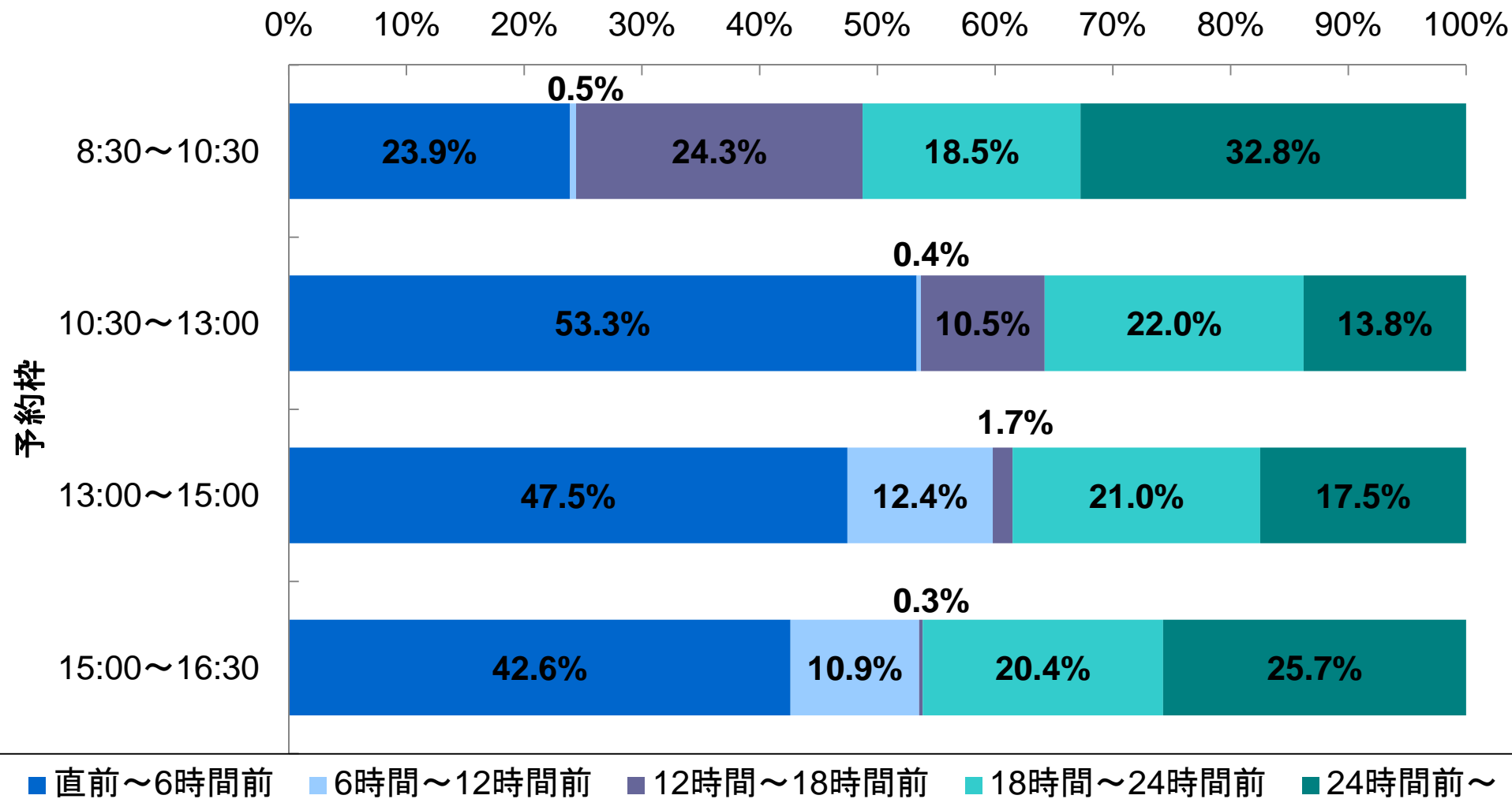
予約件数

合計:10,210台



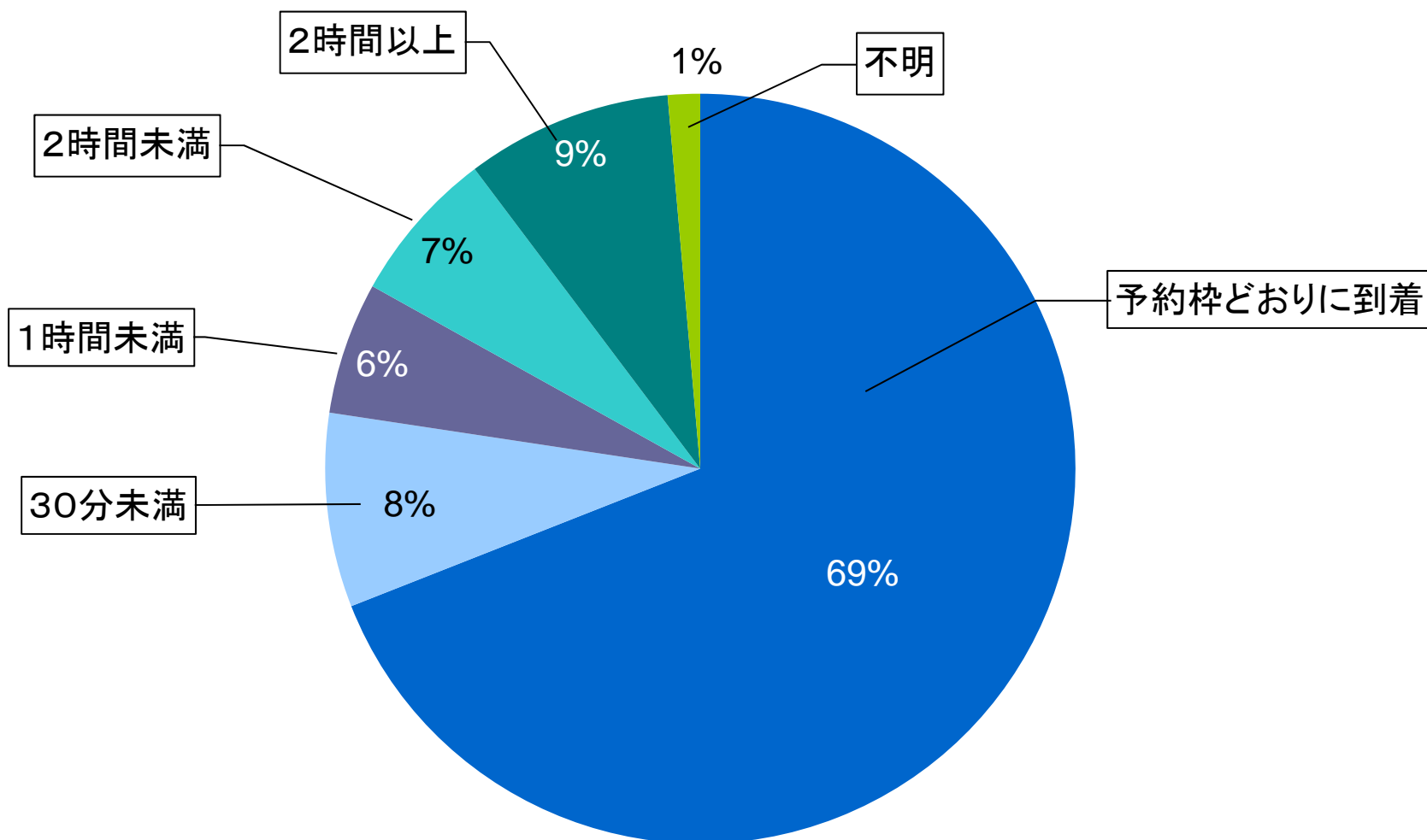
予約入力タイミング

○予約の入力タイミングは、朝一番目の予約枠(8:30~10:30)では「前日まで」が7割超であり、その他の予約枠については、「直前~6時間前まで」が最も多かった。



予約枠と実際の到着時刻のズレ

○予約枠どおりに到着した車両の割合は69%、予約枠前後30分以内のズレで到着した車両の割合は8%であった。(予約枠前後30分以内に77%の車両が到着していた。)



注) 8時30分からの予約に備え早朝に到着した予約車や、13時からの予約に備え昼休み中に到着した予約車は、予約枠どおりに到着したものとみなしている。

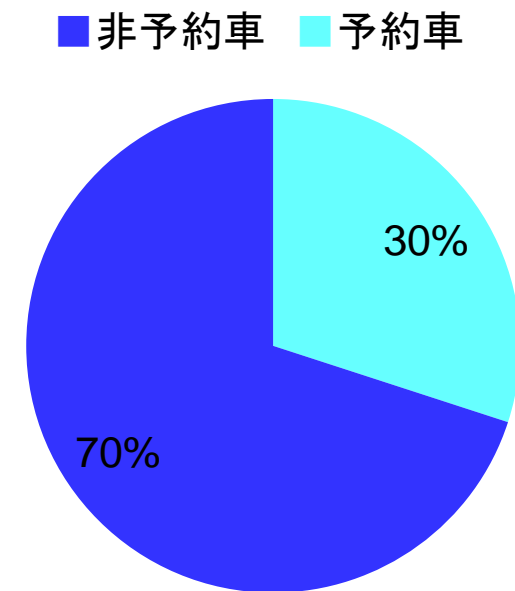
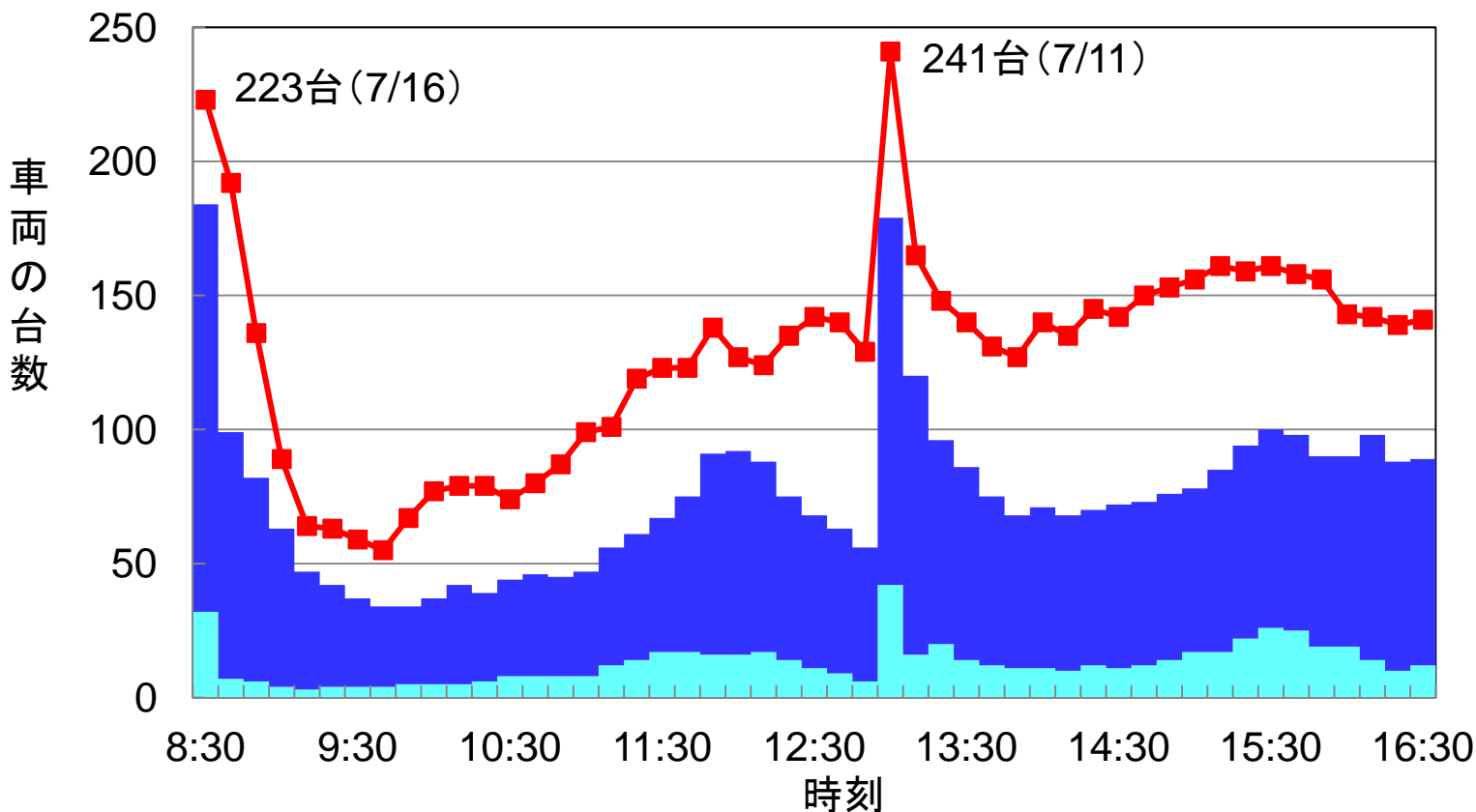
暫定システムを利用した予約制の実施期間中の待機車両の台数と予約車・非予約車の比率

- 待機車両の台数は、ゲートオープン直後と昼休み明けが多かった。
- 待機車両の内訳は、予約車が30%、非予約車が70%であった。

【暫定システムを利用した予約制の実施期間中の待機車両の台数】

【予約・非予約車の比率】

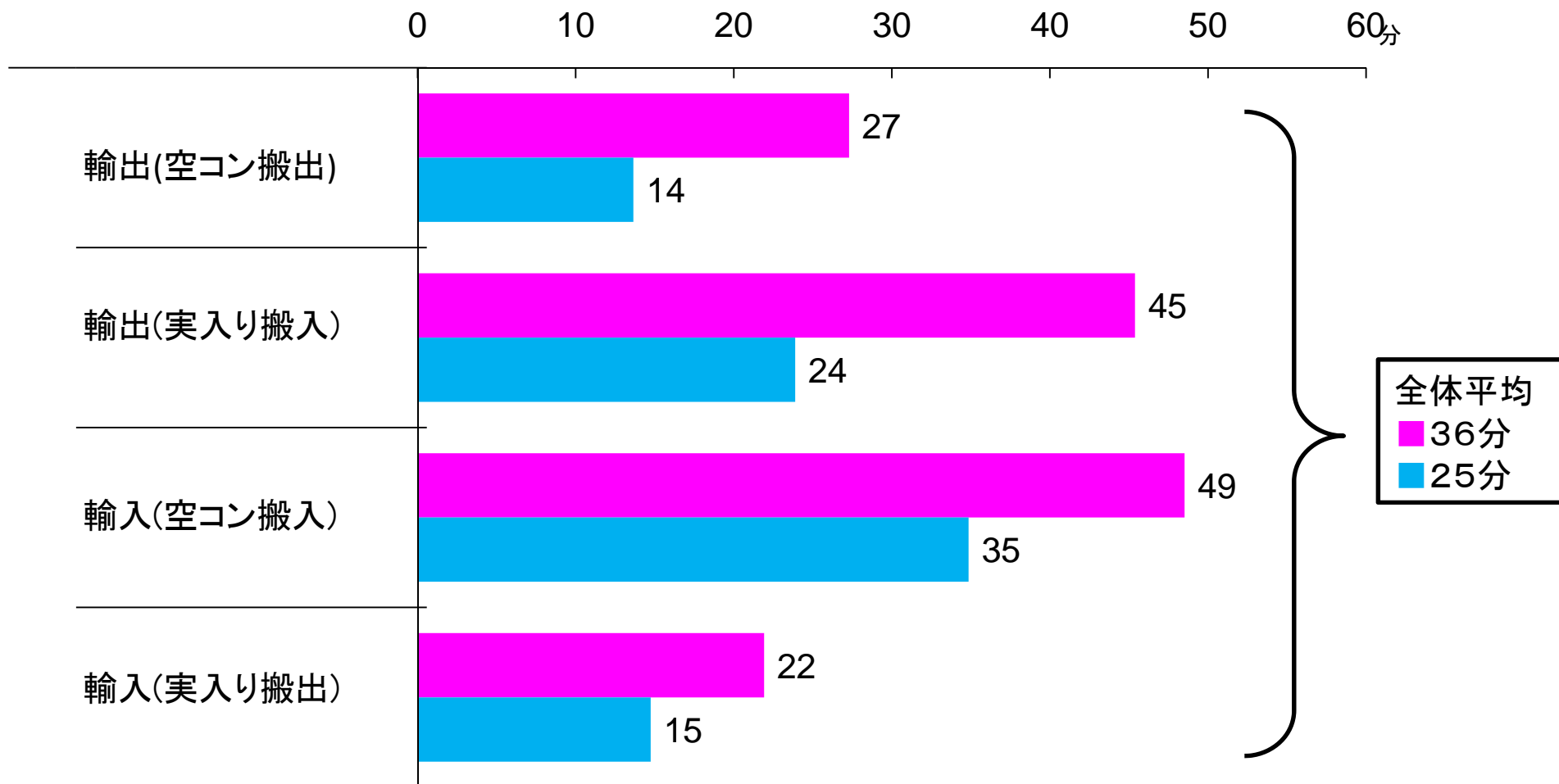
■ 非予約車平均待機台数 ■ 予約車平均待機台数 ■ 最大待機台数



※グラフは、暫定システムを利用した予約制の実施期間(7月11日～24日)のデータをもとに作成。
 ただし、土曜日(13日、20日)は、ゲートオープン時間が平日と異なる(8:30～15:00)ため除外。
 ※10分毎に待機台数をカウントしているため、10分以上待機している車両は、重複してカウント。

ゲート前の待機時間の変化

○現状把握調査時の車両の待ち時間は平均36分であったが、暫定システムを利用した予約制実施時の予約車の待ち時間は平均25分に短縮された。



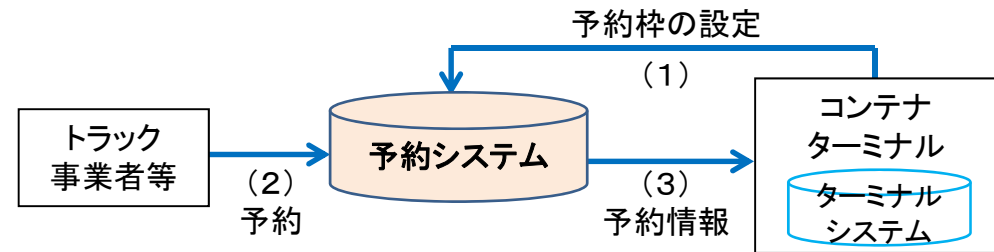
■ 現状把握調査時の車両の平均待ち時間
■ 暫定システムを利用した予約制の実施時の予約車の平均待ち時間

- 国際コンテナ戦略港湾では、コンテナ取扱量の増加に伴い、コンテナを搬出入するトラックによる渋滞が恒常的に発生。
- 渋滞緩和の対策として、これまでも、コンテナターミナルの容量拡大・処理能力向上、ゲート前のウェブカメラ映像の提供等の取組みを総合的に推進。
- 今般、ITを活用した効率的なコンテナ搬出入の実現を目指し、横浜港において、予約制の導入を検討。

コンテナターミナル前の渋滞状況の一例



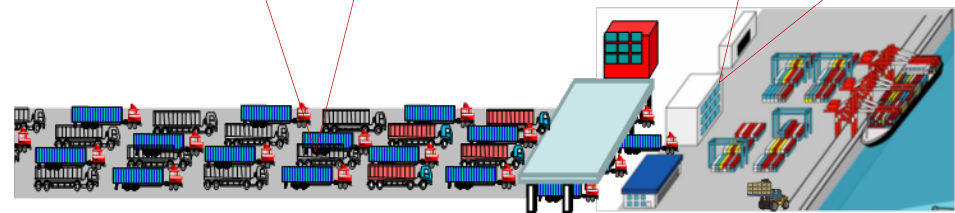
予約制のイメージ



予約制の導入による効果

①コンテナ搬出入の
繁閑の平準化

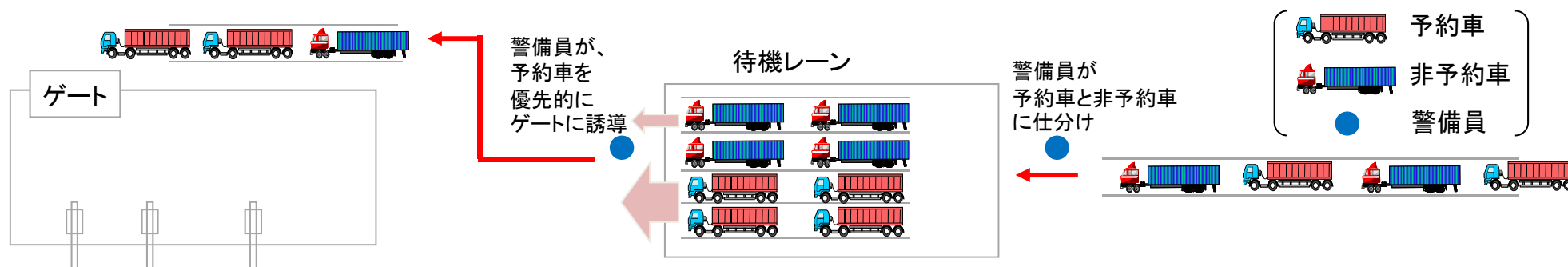
②予約情報に基づく
荷役作業や
ゲートレーンの
運用の効率化



プレ実証実験の実施方法

1. 予約システムで予約時間帯(※上限台数なし)を設定する。
 (予約時間帯) 本牧 8:30~10:00/10:00~11:30/13:00~15:00/15:00~16:30 (土曜は15:00まで。)
 南本牧 8:30~10:30/10:30~13:00/13:00~15:00/15:00~16:30 (" ")
2. トラック事業者は、予約システム上で、コンテナの搬出入を予定する時間帯に予約を入れる。
3. 予約車は、当日予約した時間帯にコンテナターミナルに到着する。
4. トラックが待機レーンに入る前に、警備員が予約車と非予約車に仕分けする。
5. トラックが待機レーンから出る際に、警備員が予約車を優先的にゲートに誘導する。

《プレ実証実験のイメージ》



《プレ実証実験の実施場所》



プレ実証実験の概要

- <主催> 横浜港IT化検討チーム事務局
 (横浜市港湾局、横浜港埠頭株式会社、横浜港運協会、国土交通省関東地方整備局)
- <目的> 予約制の制度設計の検討に必要な基礎データの収集
- <実施期間> 平成25年7月 4日(木)~7月31日(水)
 - 4(木)~10(水) 現状把握調査
 - 11(木)~24(水) 暫定システムを利用した予約制の実施
 - 25(木)~31(水) 事後調査(アンケート)